### 女性技術者・科学者のリーダーの育成

イレーナ・アトブ博士 IEEE WIE(工学に従事する女性)委員会会長

第15回APEC 女性リーダーズネットワーク会合 2010年9月19-21日 日本・東京





### 企業の急務:ジェンダーの多様性拡大

- 女性が科学・技術分野に参加することの重要性は、幅広い要因を考慮すれば見えてくる。こうした要因はいずれも、先進国、発展途上国で科学・技術分野が果たしている重要な役割を今まで以上に強固にするものである。
- これらの要因は大きく次の3つのカテゴリーに分類される。
  - > 人口統計
  - > 生産性と人的資本
  - > 多様性とイノベーション

"私たちが多様性が研究者のコミュニティ、職業、国家にもたらす利益の 大きさに気付き始めたら、女性はようやく職場で正当な地位に就くこと ができるでしょう。そうすれば、世界全体がより豊かになります。"

M. フリーズ(IEEE WIE ニュースレター 1999 年11 月号)

## 女性の進歩、成功、定着に関する データー: Around the World



- UNESCO、米国、ヨーロッパでの最新の調査結果はオーストラリアの状況と一致している。
- 世界の大部分の国や地域で、工学部の学生に女性が占める割合はだいたい4分の1以下である。ただでさえ少ない数の女性を労働力として定着させることが難しい状況が続いている。
- 最近、政府機関、大学、企業が、この不均衡の原因を理解し始め、解決に向けて動き出している。



#### 大学の工学部の卒業生に女性が占める割合ー地域別平均

地域	女性の割合 (%)	調査年	情報源
アジア	15.9	2004	NSB (2008)
中近東	17.6	2004	NSB (2008)
アフリカ	14.2	2004	NSB (2008)
西欧	24.1	2004	NSB (2008)
中欧•東欧	30.4	2004	NSB (2008)
中米・北米	22.1	2004	NSB (2008)
南米	29.4	2004	NSB (2008)
オセアニア	25.3	2004	NSB (2008)

「ジェンダー包括的な工学教育」」・ミルズ、M・エア、J・ギル(ラウトレッジ社 2010年)

#### 工学系の技術者に女性が占める割合

地域・国	女性の割合 (%)	調査年	情報源		
南北アメリカ					
米国	11.1	2007	NSF 国立科学財団(2009)		
カナダ	12.2	2006	CCWESST カナダ工学・科学・貿易・科学技術分野の女性同盟(2008)		
ヨーロッパ					
英国	8.7	2007	UKRC (2009b)		
フランス	16.8	2007	UKRC (2009b)		
ドイツ	15.4	2007	UKRC (2009b)		
ルーマニア	25.3	2007	UKRC (2009b)		
中東					
トルコ	27.0	2008	Denzig (2008)		
アジア・オセアニア					
日本	6.2	2004	Burrowes (2006)		
オーストラリア	11.2	2007	NSB (2008)		

### 障害克服のための戦略と施策

- 教育とキャリア・デベロップメントのすべての段階で、多くの対策、プログラム、イニシアチブを実施しなければならない。
- 教育アクセスの充実化
  - > 学校の支援体制や雇用を促進

例:IEEE WIEの「スター & トライエンジニアリング」プログラム、SWE(工学系の女性協会) WISE(科学・工学・ 建設業の女性の会)

- > ジェンダー・インクルーシブ(性別で分けない)カリキュラム
- ➤ 学生の定着と成功を促進する大学プログラム (例:IEEE WIE 職員体験)
- ▶ 組織文化(政策)と意思決定
  - ジェンダー・インクルーシブな職場を構築し、女性の機会を増やす例: 米国のADVANCE、Catalyst、EOWA(職場における女性の機会均等局)
  - > 国家や地域の政策(例:EUの例)
- <u>証拠と評価</u>
  - ジェンダーに関するデータ収集と指標
  - プログラムの効果を測定
- キャリア支援
  - ▶ ロールモデルの提示
  - メンタリング、キャリア・コーチングの実施
  - > 表彰・承認の提供
  - ▶ 同業者のネットワークづくりを促進
- <u>リーダーシップ</u>
  - ▶ リーダーにジェンダーの平等の問題に対処する権限を与える



### ボランティア - 理系のジェンダー平等を推進 するひとつの手段

#### **IEEE WIE**

女性技術者の育成・支援を目指す世界最大の国際専門家組織 98カ国に296の関連団体、会員を保有



他の組織と協力して、女性の地位向上および全ての個人の多様性の推進を目指し、ベストプラクティスや戦略を策定。

# 有難うございました